

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月2日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	26110
政策名(章)	第6章 総合的、計画的な土地利用を進めます	評価担当部	都市部
基本施策名(節名)	第1節 環境と調和し、地域の特性を生かした秩序ある土地利用の実現	評価担当課	みどり対策課
施策名	自然環境との共生	課長名	隅河内 司

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

緑地や水辺空間など、良好な自然環境を保全するとともに、区画整理事業や民間開発の指導等において都市緑化の促進に努めるなど、自然環境との共生を目指した土地利用を図る。
木もれびの森や相模川沿いの斜面緑地など約180.9haを近郊緑地特別保全地区等に指定し、このうち横山丘陵緑地において散策路等を整備して一部市民開放するなど、貴重な緑地の保全・活用を図っている。また、道保川や鳩川、八瀬川などの河川改修にあたっては、良好な水辺空間の保全に配慮し、多自然型の川づくりを進めている。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		85,359	「相模川沿岸施設等維持管理費」の予算を同種の事業である「緑地等維持管理費」に整理再編したことにより、相模川沿岸施設等維持管理経費のほかに緑地等維持管理経費を含めた額となったための増
人件費		37,030	
市民一人あたりの事業費	183	184	
合計	112,604	122,389	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

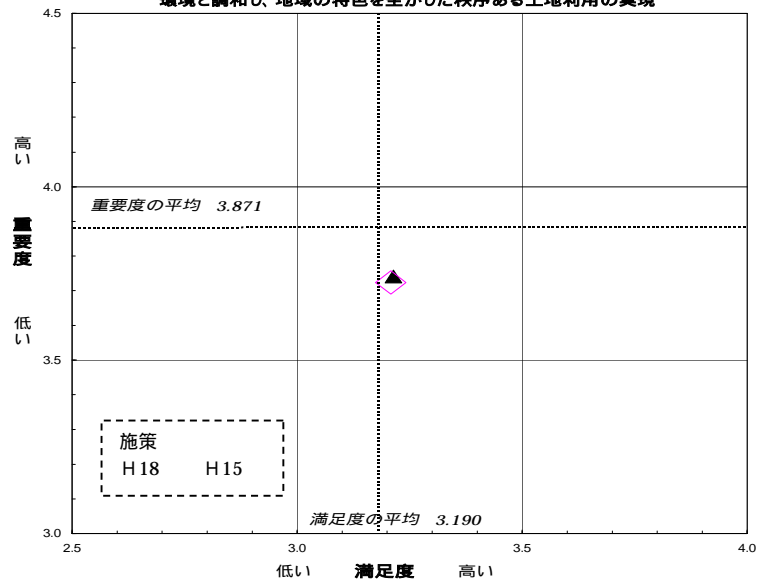
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	緑地保全地区等指定率(%)	地権者合意面積 ÷ 指定予定地面積 × 100 (%)		H17
指標2				
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値			中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	0.0	0.0	19	8.5ha	21	8.5ha	みどりの基本計画の目標(H27年:約200ha、現在180.9ha) 今後の指定予定目標面積
達成率		%					
指標2							
達成率							
指標3							
達成率							
指標4							
達成率							
指標5							
達成率							

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.208で51施策の中で21番目。
 重要度は3.724で35番目である。
 改善要望度は - 0.1165で33番目である。
 年齢別にみると、満足度、重要度ともに70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度ともに施策の順位に大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に上がり、30歳代で大幅に下がっている。
 重要度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に上がり、50歳代で下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 2①	近郊緑地特別保全地区等の指定により180.9haの緑地が恒久的に担保され、このうち木もれびの森や横山丘陵緑地の一部など市民開放されている緑地は多くの市民に利用されている。また、開発行為における緑化促進については、H18年度に要綱から条例による緑化指導となり、市街地のみどりの確保がより確実に図られるようになっている。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 ②1	平成18年度から森づくりパートナーシップ制度を創設し、下草刈り・間伐等の樹林管理や自然観察など緑地の保全・活用に係る活動を希望する市民ボランティア団体に対する位置付けを明確にするとともに必要な支援を図っていく。また、河川改修においては多自然型の整備を進めることにより、治水・利水と合わせて河川環境の保全が図られ効果を上げている。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 ②1	市民満足度調査による満足度は51施策中21番目、重要度は35番目であり、平均値と比較して、満足度が高く、重要度が低い結果となっている。また、都市化が進む本市においては、残された貴重な緑地や水辺環境の保全とこれらとの共生へのニーズは高く、また自然とのふれあいの場も求められている。	
合計		5	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	木もれびの森や相模川沿いの斜面緑地などでは散策路等が整備されているが、樹木の巨木化等による荒廃が進んできており、樹林の適正な維持管理が課題である。
解決策	土地所有者との協力体制の充実を図り、良好な樹林管理に努めていく必要がある。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

設定された指標は17年度の達成度を示す指標となっていない。成果を表す指標の設定が難しい施策であるが、今後、施策目的に適合した指標の設定を検討する必要がある。	2次評価 B
--	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

